

景気景況調査報告

(第25回)

令和4年 1～ 3月期 実績

令和4年 4～ 6月期 見通し

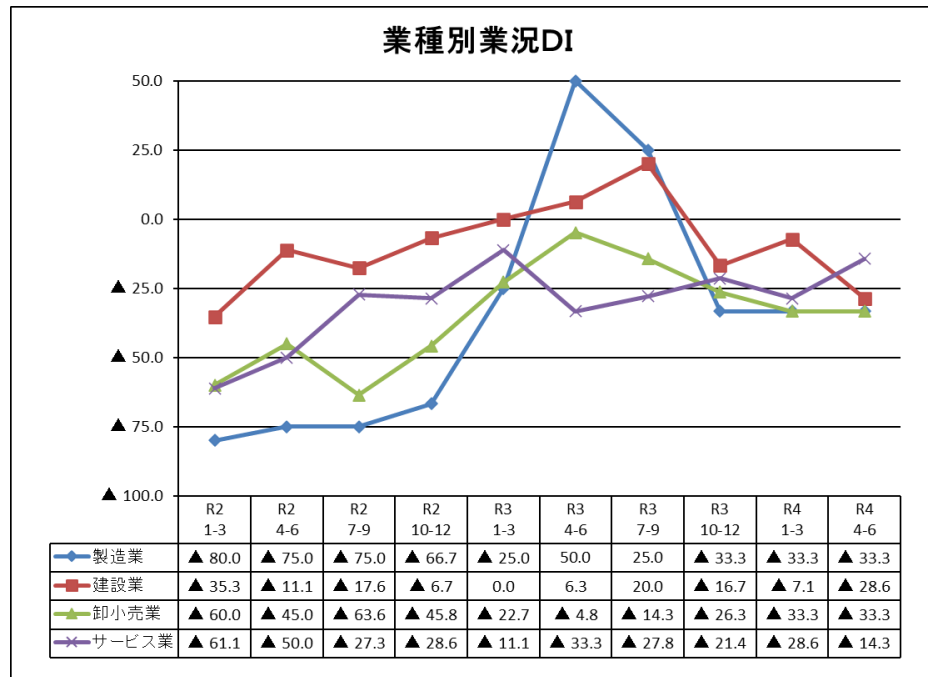
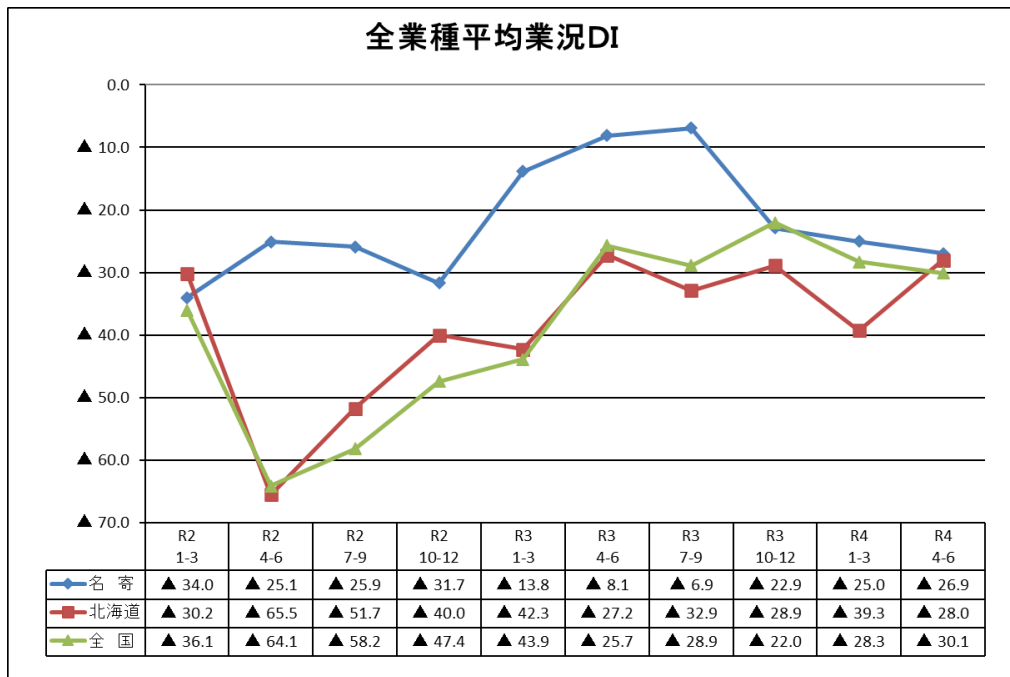
令和4年4月

名寄商工会議所

I 調査要領

- ①調査対象期間 令和4年1～3月期の実績及び令和4年4～6月期の見通し
- ②調査内容 製造業、建設業、卸小売業、サービス業の4業種に分類し、売上高、採算、仕入、従業員、業況、資金繰りの6項目について調査を実施。
- ③調査対象 当所会員企業（FAXで協力願い） 121社

II 調査結果

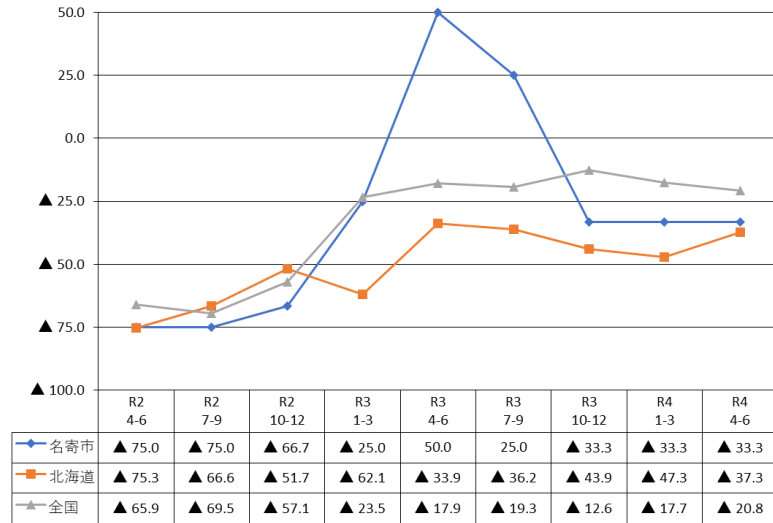


※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

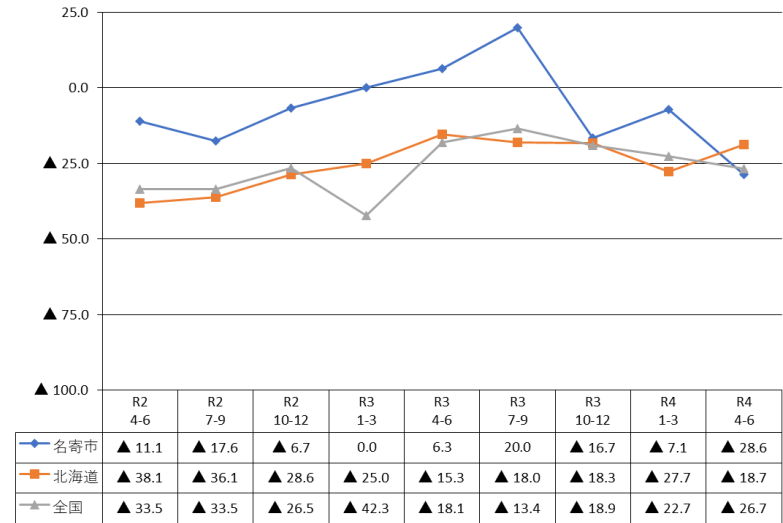
- ・今期、全業種平均で▲25.0ポイントと前回調査と比べ2.1ポイント悪化となっている。
- ・北海道（道商連調査）の景気を比較すると、今期10.4ポイント悪化となり、見通しではマイナス幅が縮小する見込みとなっている。
- ・全国（日商調査）の景気を比較すると、今期6.3ポイント悪化となり、見通しではマイナス幅が拡大する見込みとなっている。
- ・見通しでは今期と比べ1.9ポイント悪化となっており、依然として先行き不透明という回答が多くみられる。
- ・業種別では、前期に比べ建設業のみ好転となっている。見通しではサービス業が好転となっている。

業種別業況DI

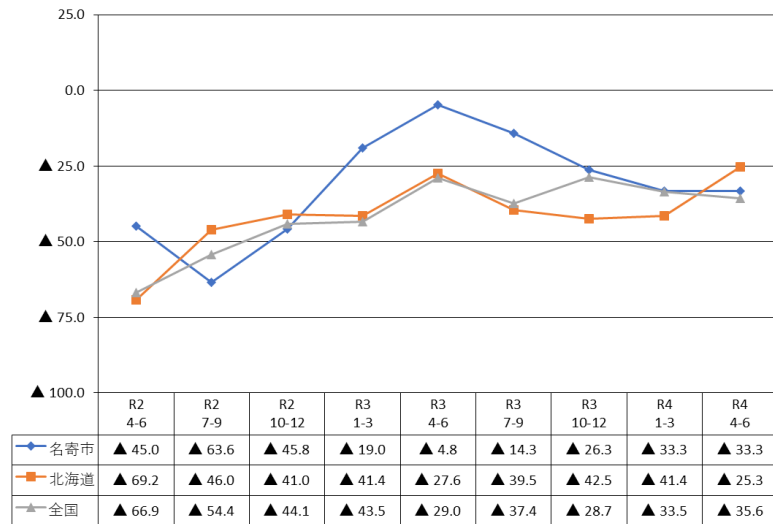
製造業 業況DI



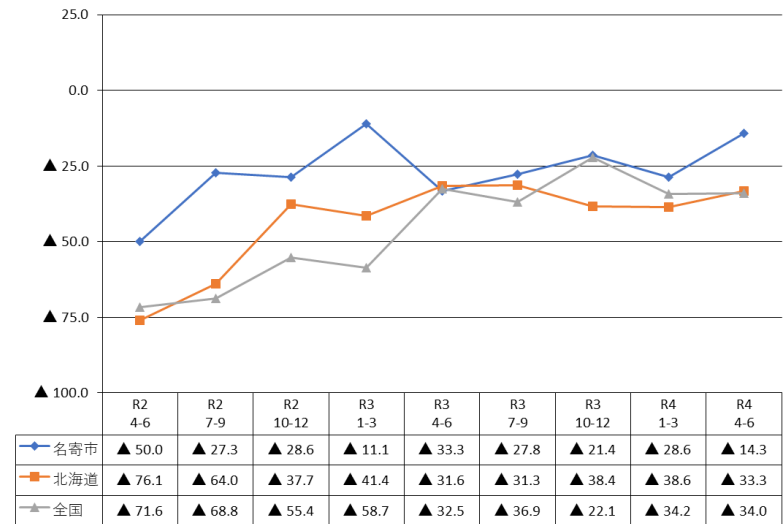
建設業 業況DI



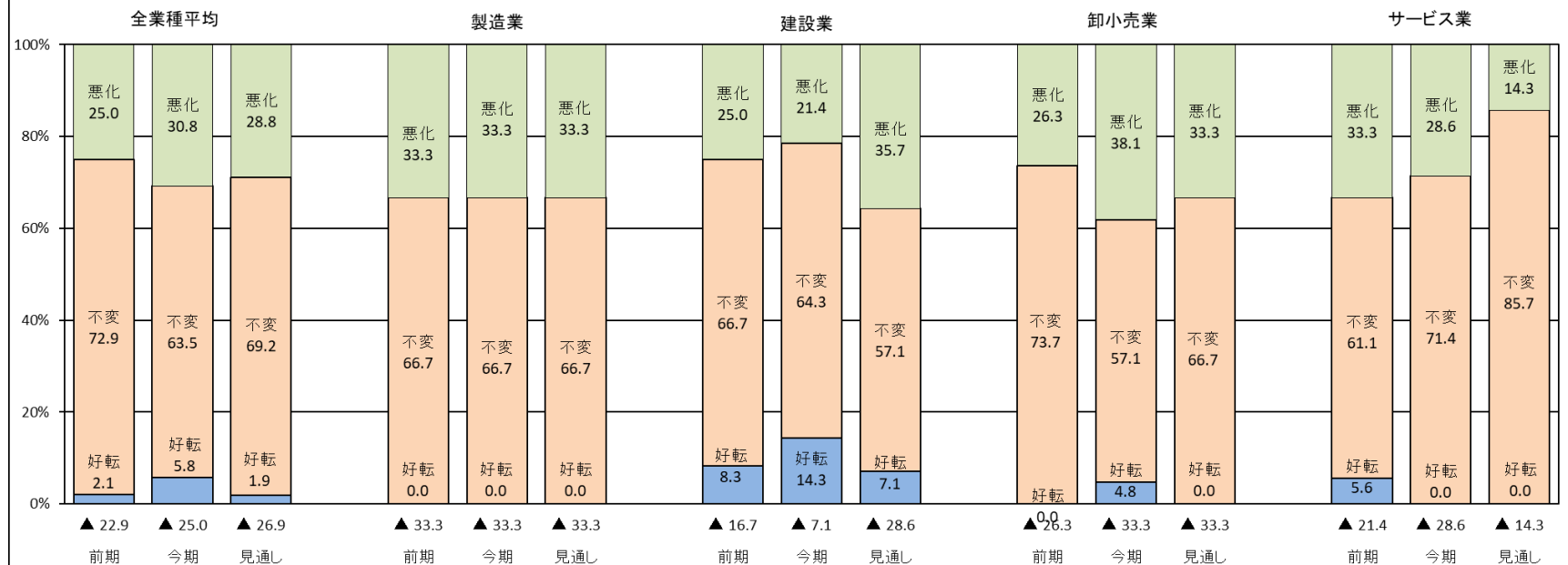
卸小売業 業況DI



サービス業 業況DI



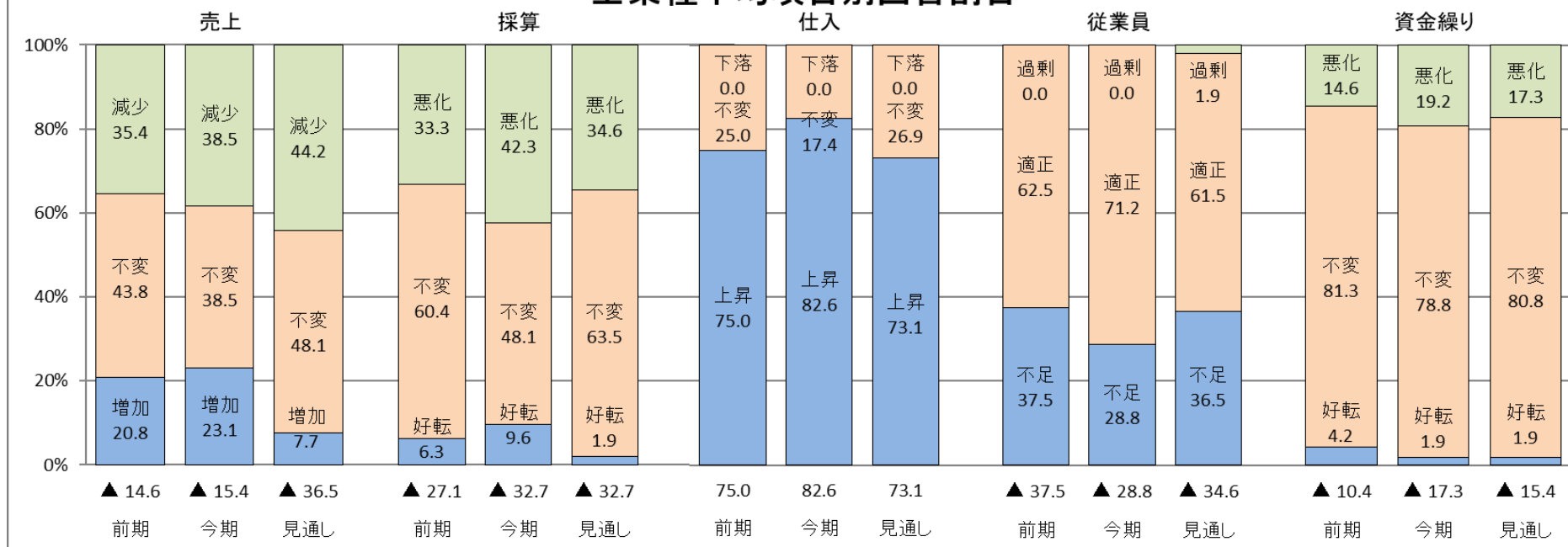
業種別業況回答割合



※D I : 「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- 製造業～ 前期・見通しとも今期と変わらない。
- 建設業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が3.6%減少しており、「好転」が6.0%増加している。
見通しでは「悪化」が14.3%増加し、「好転」は7.2%減少となっている。
- 卸小売業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が11.8%増加しており、「好転」は4.3%増加している。
見通しでは「悪化」が4.8%減少し、「好転」の回答はない。
悪化の要因として、原油価格・物価等の高騰や王子マテリア撤退、人口減少等がみられる。
- サービス業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が4.7%減少しており、「好転」の回答はない。
見通しでは「悪化」が14.3%減少し、「好転」の回答はない。
全体的に人口減少・仕入運賃増加・お客様の減少・若年層不足・仕入単価増加・新型コロナ株に伴う外出抑制
コロナによる人流制限・コロナ対策予算の増加、見通し不透明等々の要因が挙げられている。

全業種平均項目別回答割合



売上 DI 今期▲15.4ポイントと前期より2.3ポイント減少となっている。見通しでは21.1ポイント減少となっている。
 [減少の要因] ・人口減少 ・物流の遅延 ・事業の減少

採算 DI 今期▲32.7ポイントと前期より5.6ポイント減少となっている。見通しの増減はない。
 [悪化の要因] ・利益率の悪化 ・固定費の増加 ・メーカーの大幅値上げ ・原油価格の増加

仕入 DI 今期82.6ポイントと前期より7.6ポイント増加。見通しでは9.5ポイント減少となっている。
 [上昇の要因] ・仕入運賃の増加 ・原材料の上昇 ・深刻な半導体不足 ・人件費上昇

従業員 DI 今期▲28.8ポイントと前期より8.7ポイント増加となっている。見通しでは5.8ポイント減少となっている。
 [不足の要因] ・高齢化 ・人口減少 ・若年層の減少 ・求人難 ・退職者増 ・仕事量の減少

資金繰り DI 今期▲17.3ポイントと前期より6.9ポイント減少となっている。見通しでは1.9ポイント増加となっている。
 [悪化の原因] ・売上減少に伴う減少 ・品不足 ・新型コロナウイルスの影響 ・先行不透明